



ジョージア映画祭 2022

コーカサスからの風

2022. 11/26～12/9 シネマ5

火の馬 / ざくろの色 / アシク・ケリブ / ピロスマニ / ピロスマニ・ドキュメンタリー / ピロスマニの
アラベスク (短編) / インタビューアー / ウジュムリ / ブバ (短編) / 青い山——本当らしくない本当の
話 / マグダナのロバ / ナイロンのクリスマスツリー / 幸福 (短編)



火の馬



セルゲイ・パラジャーノフ監督
1964年/カラー/1時間32分
出演：イワン・ミコライチェク、
ラリサ・カドチニコワ、タチ
アナ・ベスタエフ、スベルタク・
バガシヴィリ

11月26日🇯🇵朝 10:00
11月28日🇯🇵夕 4:20

パラジャーノフの名を一躍世に知らしめた民俗色あふれる傑作。バリーチューク家のイワンと、フテニユーク家のマリーチカは幼くして出会い、将来を誓い合う。しかし両家は長年対立していて、2人の交際は周囲の激しい反対に遭う。マリーチカが事故死し、残されたイワンはマリーチカの幻影にとりつかれたまま、この世の現実から遠いところをさまい続ける。やがてそんな彼の前に新たな女性が現れ夫婦の契りを交わすことになるが…。耽美的イメージと土着的エネルギーが反響し奏でられる恋物語。

アシク・ケリブ



セルゲイ・パラジャーノフ監督
1988年/カラー/1時間14分
出演：ユーリー・ムゴヤン(ア
シク・ケリブ)、ヴェロニカ・メ
トニーゼ(マグリ)、ソフィコ・
チャウレリ(アシクの母)

11月28日🇯🇵朝 10:15
12月1日🇯🇵夕 4:20
12月9日🇯🇵朝 10:00

セルゲイ・パラジャーノフの遺作となった集大成的傑作。さまざまな民族文化が万華鏡のように豊かに反映された、まさにパラジャーノフ芸術の粋と言える作品。貧しいながらも心優しい吟遊詩人アシク・ケリブは、愛し合う女性マグリとの結婚を、領主である彼女の父に認めてもらう為に身を立ようと旅に出る。1000の昼と夜の後に帰ると彼女に約束して…。ある時、流浪の日々を送っていたアシクの前に聖人が現れ、恋人に危機が迫っていると告げる。彼は聖人の魔法の力に救われ、故郷へ帰還するのだった……。

ウジュムリ



ヌツァ・ゴゴベリゼ監督
1934年/白黒/ 58分/サイ
レント・サウンド版
出演：コテ・ダウシュヴィリ(バ
ルナ)、メラブ・チコヴァニ(カ
ヴタル)、ヌツァ・チヘイゼ(マ
リアム)

11月30日🇯🇵夕 4:20
12月5日🇯🇵朝 10:00

ソ連邦初の女性監督による長編劇映画。西ジョージア、サメグレロ地方のリオニ川沿いの湿地帯が舞台。マラリアが蔓延する苛酷な環境を変えるために、水路を作る人々と古くからの土地の人々との軋轢を描いている。1930年代に主流だった新旧勢力の対立を描いた映画である。マラリアの感染を予感させる蚊や底なし沼を象徴的に使い、恐怖映画のように不吉な予感が漂う。ソヴィエトの新しい生活様式と伝統的な家父長制、家族制度が、「プバ」に引き続き、彼女ならではの視点で描かれる。

ざくろの色



セルゲイ・パラジャーノフ監督
1969年/カラー/1時間13分
出演：ソフィコ・チャウレリ(青
年詩人・詩人の恋人・尼僧・
天使・バントマイム)、M・アレ
キアン、V・ガレストイン

11月27日🇯🇵朝 10:15
11月29日🇯🇵夕 4:20
12月2日🇯🇵夕 4:20

「これはサヤト・ノヴァの伝記ではない」との断りの字幕で幕を開ける詩人の生涯。幼年時代は愛情あふれる両親に護られ、幼くして美と言葉への愛にめざめ、書物を慈しみ、宮廷詩人となってからは高貴な女性に愛を捧げ、詩と琴の演奏によって想いを伝える。やがて王妃との悲恋は詩人を死の予感で満たし、修道院に幽閉されて、立ち会う冠婚葬祭の彩りのうちに人生の真理に触れる。やがて老いた詩人は、自分の出会った人びとを思い出しながら、死を迎える準備をする…。絵画のように美しい映像詩。

インタビュー



ラナ・ゴゴベリゼ監督
1977年/カラー/1時間35分
出演：ソフィコ・チャウレリ(ソ
フィコ)、M・バドリゼ(アルチ
ル)、ケテヴァン・オラヘラシュ
ヴィリ(ソフィコの母)

11月26日🇯🇵夕 4:20
12月1日🇯🇵朝 10:00
12月4日🇯🇵朝 10:00

91歳の新作『金の糸』が公開されたラナ・ゴゴベリゼ監督の代表作。ジョージアの家父長社会で、女性のおかれている困難な状況を明らかにした、ジョージア初のフェミニズム映画といわれる作品。女性記者ソフィコは、新聞の投稿欄のために、さまざまな女性たちに「あなたは何を夢みているか?」「余暇はどう過ごすか?」と取材してまわる。そのインタビューを通して、彼女たちの生活環境と人生が浮き彫りにされてゆく。仕事と家庭を両立させるために悩んでいたソフィコは、夫の不倫を知って動揺する…。

青い山——本当らしくない本当の話



エルダル・シェンゲラヤ監督
1983年/カラー/1時間35分
出演：ラマズ・ギオルゴビアニ
(ソソ)、ティムラズ・チルガゼ
(所長)、ヴァジル・カフニア
シュヴィリ(ヴァソ)

11月27日🇯🇵夕 4:20
12月6日🇯🇵朝 10:00
12月8日🇯🇵朝 10:00

多くが屋内で撮影されるが、四季の変化を定点で映したトビリシの街角の表情がみずみずしい。真面目に働かず個々の趣味や関心事に熱中して混乱を極める職員たち、その背後で持ち込まれた原稿が山積されている様が生々しく哀れである。この映画の狐につままれた、あるいは煙に巻かれた、ともいうべき奇妙な味わいは格別で、ジョージアの風刺コメディーの真骨頂だろう。登場人物は個性的で愛すべき怠け者ばかりだが憎み切れない。独特な距離感が見る者に含み笑いをもたらし。

ピロスマニ



ギオルギ・シェンゲラヤ監督
1969年/カラー/1時間26分
出演：アフタンディル・ヴァラ
ジ(ピロスマニ)、ダヴィト・ア
バシゼ(ヴァソ)、ズラブ・カビ
アニゼ(コラ)

11月29日🇯🇵朝 10:00
12月3日🇯🇵朝 10:00
12月7日🇯🇵夜 8:10

画家ピロスマニの人生と魂を清冽に描き、ギオルギ・シェンゲラヤ監督とピロスマニの名を広く世界に知らしめた作品。シェンゲラヤ監督は、ピロスマニの姿に、ジョージアの民族と歴史、文化、風土への思いを重ね、その放浪の人生を描いている。映画ではピロスマニの人生のエピソードが、時系列に、彼の絵を冒頭に据えた断片のように描かれるが、最後の「キリストの昇天」の絵が印象深い。また映像の随所に彼の絵のモチーフが実像化して置かれている。

マゲダナのロバ



テンギズ・アブラゼ&レヴァズ・
チヘイゼ監督 1955年/白黒
/1時間11分/79年復元版
出演：ドウドゥハナ・ツェロゼ
(マゲダナ)、リアナ・モイスツ
ラビシュヴィリ(ソボ)

12月3日🇯🇵夜 8:10
※上映後、はらだたけひでさん
のティーチ・イン開催
12月7日🇯🇵朝 10:00

カンヌ国際映画祭で短編部門グランプリを獲得し、その後のジョージア映画に大きな影響を与えた作品。ロシア帝政下、1895年のトビリシが舞台。欲深い商人に酷使されて病になり路傍に捨てられたロバを救った貧しい母マゲダナと子どもたちの姿を通し、貧富の格差、権力や金のある者が社会を牛耳っていること、不正さ、庶民の生活と情愛、子どもたちの純真な心を描いている。なによりも市井の人たちの目線で現実社会をリアルに厳しく捉えていることが、それまでの映画の傾向と異なり新鮮である。

ピロスマニ・ドキュメンタリー



ギオルギ・シェンゲラヤ監督
1990年/カラー/49分
脚本・ナレーション：ギオルギ・
シェンゲラヤ 撮影：ザウル・
サギナゼ 美術：ニコロズ・
シェンゲラヤ

11月30日🇯🇵朝 10:00
12月8日🇯🇵夜 8:10

ピロスマニ入門として最適の作品。ピロスマニ(ニコ・ピロスマンシュヴィリ 1862?~1918)の人生と作品を、証言と当時の貴重な写真を交えて紹介する。ピロスマニは東ジョージア、カヘティ地方ミルザアニ村の農家に生まれたと伝えられる。幼くして両親を亡くし、生涯の多くを、首都トビリシを中心に転々としながら、日々の糧と引き換えに店の看板や壁に飾る絵を描き続けた。そして1000点を越えるといわれる作品を遺し、貧しく孤独のうちに亡くなったのだった。

ナイロンのクリスマスツリー



レゾ・エサゼ監督
1985年/カラー/1時間15分
出演：ルシアン・ミカベリゼ、
グラム・ベトリアシュヴィリ、
ソフィコ・ゴルガゼ、コテ・チャ
ントゥリシュヴィリ、ズラブ・
キブシゼ

12月2日🇯🇵朝 9:45
12月4日🇯🇵夜 8:10

大晦日、新年を故郷で迎えるために首都トビリシからバスで帰省する人々。一台の長距離バスに乗り合わせたさまざまな立場の老若男女を描いた、群像劇の秀作。バスが発出するまでの人々の騒ぎ、道中での車内のいざこざを映したシンプルなロードムービーだが、緻密な演出が企てられていることがわかる。バスの乗客たちの無秩序な喧騒のなかにも哀愁があり、不思議に心に染み入る。ゴルパチョフ書記長によるペレストロイカ(1985)の直前に製作され、ソ連邦社会の激動を予言した作品といわれる。

短編

ピロスマニのアラベスク



セルゲイ・パラ
ジャーノフ監督
1985年/カラー
/22分 脚本:
コリナ・ツェレテ
リ 撮影:ノダル・
パリアシュヴィリ

G・シェンゲラヤ監督の作品に込めるように、ピロスマニへの崇敬の思いを込め、画家の世界を自らの汎コーカサス的ともいえる美的感性で捉えた、セルゲイ・パラジャーノフ監督作品。冒頭に「偉大なジョージア人画家の生涯と作品に捧げる」と記され、全体は大きく九つの章に分けられている。

『ピロスマニ・ドキュメンタリー』と同時上映

ブバ



ヌツァ・ゴゴベリ
ゼ監督 1930
年/白黒/37
分/サイレント・
サウンド版
撮影:セルゲイ・
ザボスラエフ

コーカサスのラチャ地方の村の暮らしを描いたドキュメンタリー。川の氾濫、土砂崩れなど、自然災害が絶えないなか、村人たちは日々、農作業に励む…。標高1900mに位置するコーカサスの厳しい大自然のなか、村人の四季折々の暮らしと、ラチャ地方の民族的精神が鮮やかに描き出されている。

『ウジュムリ』と同時上映

幸福



サロメ・アレクシ
監督 2009年/
カラー/32分
出演:ギア・アベ
サラシュヴィリ、ニ
カ・パヒア、ルス
ダン・ボルクヴァ

独立後の厳しい社会状況下、幼い子どもが三人いる家族の父親が交通事故で死亡する。妻はイタリアに出稼ぎに行き、一家に仕送りをしていた。彼女は不法移民のために葬儀に帰れず、携帯電話を通して夫の遺体悲しみを切々と語り続ける。ジョージアらしいユーモアとアイロニーに彩られた佳作。

『ナイロンのクリスマスツリー』と同時上映

ジョージア映画祭 2022 コーカサスからの風

TIME TABLE

11月26日(土) 朝 10:00 火の馬 / タ 4:20 インタビュアー

27日(日) 朝 10:15 ざくろの色 / タ 4:20 青い山——本当らしくない本当の話

28日(月) 朝 10:15 アシク・ケリブ / タ 4:20 火の馬

29日(火) 朝 10:00 ピロスマニ / タ 4:20 ざくろの色

30日(水) 朝 10:20 ピロスマニ・ドキュメンタリー
ピロスマニのアラベスク(短編) / タ 4:20 ウジュムリ ブバ(短編)

12月1日(木) 朝 9:45 インタビュアー / タ 4:20 アシク・ケリブ

2日(金) 朝 10:00 ナイロンのクリスマスツリー 幸福(短編) / タ 4:20 ざくろの色

3日(土) 朝 10:00 ピロスマニ / 夜 8:10 マグダナのロバ ※上映後、はらだたけひで
さんによるティーチ・イン

4日(日) 朝 10:00 インタビュアー / 夜 8:10 ナイロンのクリスマスツリー 幸福(短編)

5日(月) 朝 10:00 ウジュムリ ブバ(短編)

6日(火) 朝 10:00 青い山——本当らしくない本当の話

7日(水) 朝 10:00 マグダナのロバ / 夜 8:10 ピロスマニ

8日(木) 朝 10:00 青い山——本当らしくない本当の話 / 夜 8:10 ピロスマニ・ドキュメンタリー
ピロスマニのアラベスク(短編)

9日(金) 朝 10:00 アシク・ケリブ

12月3日(土) 夜 8:10『マグダナのロバ』上映後 はらだたけひでさん ティーチ・イン

1954年、東京都小平市に生まれる。都立高校を卒業後、現代思潮社主宰「美学校」で現代美術の松澤宥氏に師事。信州の山間を中心に彷徨後、1974年12月から東京・岩波ホールで働き始め、翌75年5月に正式入社し、企画広報を担当。2019年2月末に定年退職する。その間、創作絵本や挿画の制作のほか、ジョージア(グルジア)との文化交流にも映画や画家ピロスマニの研究を中心に努める。現在はフリーで活動。絵本の活動では、1989年に絵本第1作「バシュラル先生」で産経児童出版文化賞入賞、小学館絵画賞最終候補作品選定。1994年に第2作「フランチェスコ」でユニセフ=エズラ・ジャック・キーツ国際絵本画家最優秀賞を日本人で初めて受賞。ジョージアとの活動では、2019年にジョージアで開催されたピロスマニ祭で、日本におけるジョージア映画とピロスマニの紹介に対して感謝状が授与される。



料金：一般 1,500円 / シニア 1,200円(11/30までは1100円、12/1は1000円) / 学生 1,000円

シネマ5 大分市府内5番街 / ローソン2F お問い合わせ: 097-536-4512

主催: 合同会社チネ・ヴィータ

全国巡回主催: ジョージア映画祭2022実行委員会・コミュニティシネマセンター

企画: はらだたけひで 企画協力: 日本語字幕: 児島康宏 上映素材制作: 大谷和之

協力: ジョージア国立フィルムセンター、ジョージア国立アーカイブ、ジョージア・フィルム、

ジョージア映画発展基金、ジョージア映画アカデミー 【後援】在日ジョージア大使館

文化庁 令和3年度補正予算事業

ARTS 2
ARTS for the future! ▶ 2